

中学校

平成 15 年 度

# 教育研究員研究報告書

美	術
---	---

東京都教職員研修センター

## 平成15年度

### 教育研究員名簿（美術）

区市町村名	学 校 名	氏 名
港 区	港区立港陽中学校	坂井 均史
台東区	台東区立柏葉中学校	関根 たみ恵
大田区	大田区立御園中学校	木村 創
練馬区	練馬区立光が丘第四中学校	大塚 雄史
江戸川区	江戸川区立小岩第四中学校	矢野 芳幸
江戸川区	江戸川区立小岩第五中学校	静野 亜希子
稲城市	稲城市立稲城第二中学校	富井 嘉子
奥多摩町	奥多摩町立氷川中学校	山下 久也

[ 担当 ] 東京都教職員研修センター指導主事 佐々木 清 恵  
指導主事 鈴木 淳 子  
校長長期研修生 野崎 裕一郎

研究主題

「伝える心・感じる心」を育てる指導と評価の工夫

目次

主題設定の理由	2
研究のねらい	
研究の方法	
研究の仮説	
研究の全体構想	3
授業による研究	
一版多色刷り「空想の世界 自分の想いを表現する」	4
油彩画 「自由テーマによる油彩画」	10
平面・立体 「心のスケッチ・空想」	16
研究のまとめ	23

## 研究主題 「伝える心・感じる心」を育てる指導と評価の工夫

### 主題設定の理由

表現することに喜びを感じ、美しいものに心から感動する。それは子どもたちが人として健やかに成長するために不可欠な体験であり、美術科における表現活動において保証されていくものである。しかし、各研究員の所属校での実態について協議してみると、最近の生徒は自分を表現することに対して臆病であるとの共通認識があり、本研究で実施したアンケートからもその傾向が読み取れる。また、発達段階の面から見ても、自我の確立とともに自他の比較を強く意識する時期でもあり、美術科の授業においても、「作品を見られるのが恥ずかしい」「自分は絵が下手だから」など、表現を通した喜びや自己肯定感をもてない生徒も見られ、自分の思いを作品に表そうとしない、表現方法を深く追究できない、といった様々な課題が生じている。

これらの課題に対し、生徒が生き生きと表現活動に取り組めるようにするにはどうしたらよいのだろうか、という思いからこの研究はスタートした。そして、自ら表現しようとする意欲を高め、表現することに喜びを感じさせるためには、生徒と教師、そして生徒同士が互いの表現のよさを認め合いながら、「伝える心・感じる心」を育てる指導と評価の工夫が必要であると考え、本主題を設定した。

### 研究のねらい

本研究主題の「伝える心」とは、造形活動における自分の考えや思いを相手に伝えようとする気持ちであり、「感じる心」とは、造形作品から他者の考えや思いを読み取り、味わおうとする気持ちである。これら「伝える心・感じる心」を育てるには、表現力や創造力を伸ばすだけでなく、造形活動を通して他者とのコミュニケーションを図ることが重要であると考えた。互いに作品を鑑賞しあったり、表現の意図や工夫を語りあう経験を重ねる中で、「自己表現の楽しさ」や「他者の表現を味わう喜び」を感じることができるようになり、創造的な表現や鑑賞に挑戦していく意欲をもった生徒が育成されると考えられる。

このことを踏まえ、本研究では、「伝える心・感じる心」を育てるための効果的な指導方法の工夫、適切な評価の在り方を探ることをねらいとする。

### 研究の方法

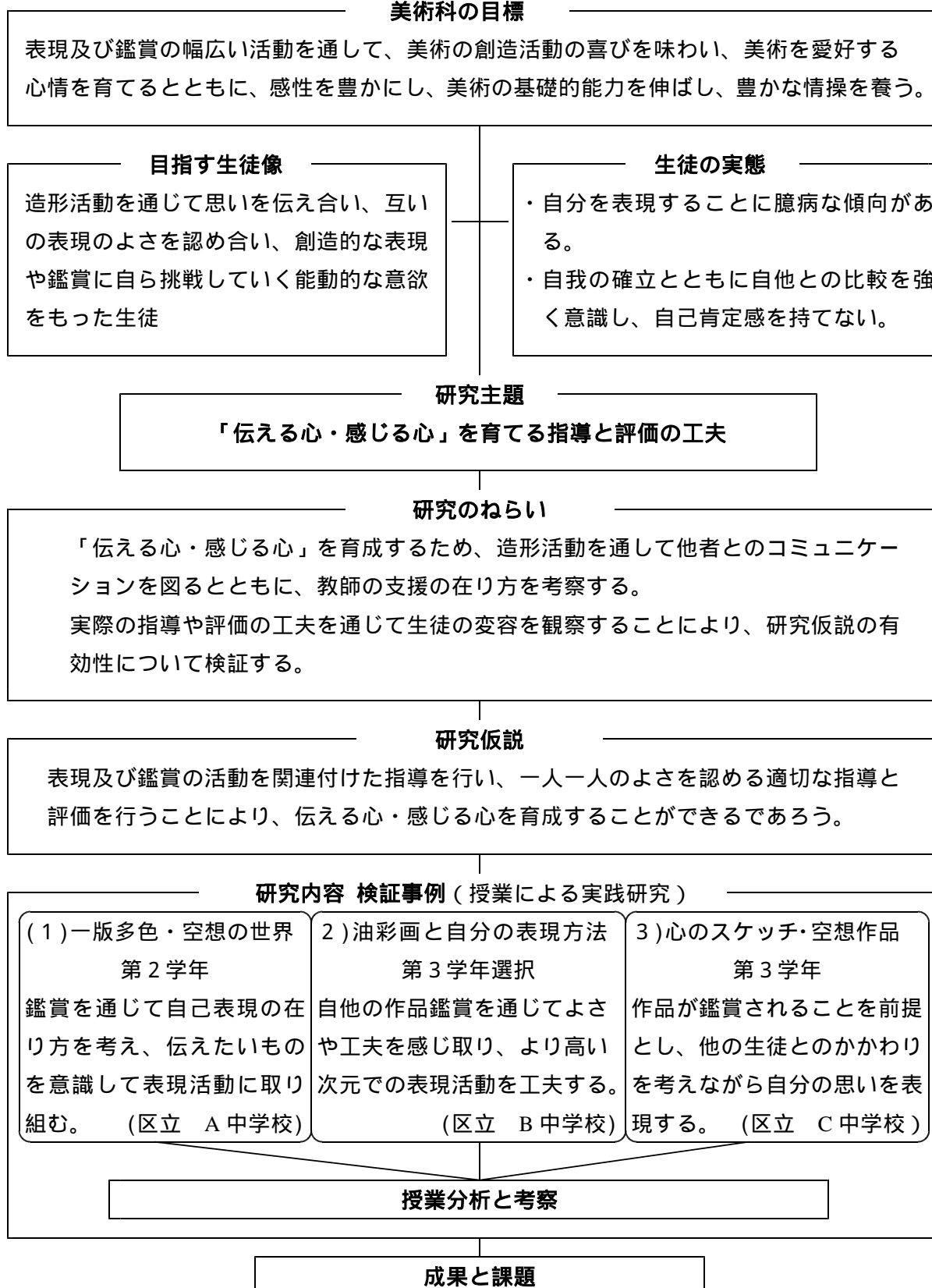
実践的研究として、仮説をもとに「伝える心・感じる心」を育成するための適切な題材、授業時の教師の指導の在り方、効果的な評価の仕方を考察し学習指導案を作成する。そして実際に検証授業を行い、生徒の変容を調査、確認、分析することにより、研究仮説の有効性について検証する。

### 研究の仮説

「伝える心・感じる心」の育成のためには、授業において表現活動の動機付けとして鑑賞活動を積極的に取り入れたり、自分の表現したい思いを強く意識して作品を制作させたり、他者の表現を認め味わうための鑑賞の活動や、互いのよさを認める評価を取り入れることが有効ではないかと考え、以下のような研究仮説を設定した。

研究仮説「表現及び鑑賞の活動を関連付け、一人一人のよさを認める適切な評価を行うことにより、伝える心・感じる心を育成することができるであろう。」

### 研究の全体構想



## 授業による研究

### i 一版多色刷り「空想の世界 自分の想いを表現する」(第2学年 12時間)

#### 1 題材設定の理由

空想画では最初の発想が重要な役割を果たすが、最初の考えから抜け出せずに表現が深まらないことも多く見受けられる。また、空想画は自分の世界の表出であり、自分の考えを認めてもらえるかという不安を表すとすれば、それも題材となる。

今回、制作過程の初期段階で互いのアイディアスケッチの鑑賞を設け、互いに自分の表現したいことを発表し、それに対する他者の意見を聞くことにより自分の表現を確認し、他者の発想のよさや工夫した点をくみ取りながら自分の発想を広げたり表現を深めたりできると考えた。そのことにより、空想画を用いて「伝える心、感じる心」を育てる題材とすることができると考えた。状況を自由に設定したり、造形要素をくみ入れ易い空想画は生徒の相互鑑賞に効果的な課題であると考えた。

ここでは形成的な評価を取り入れ、相互鑑賞の中で、教師からの支援として鑑賞のポイントを提示し、生徒相互のよさを認める評価と、教師からの直接の支援と評価を行った。この評価を取り入れていくことで、生徒の表現が深まっていくと考えた。

また、空想画を一版多色刷りとの複合課題として扱い、版形式の間接的、段階的な制作過程において自分の思いを確認しながら制作し、版形式の表現の特性を生かした単純化によるダイナミズムや重色の効果により表現が深まると考えた。単純化は描写が苦手な生徒への対応にもなり、重色の効果は単純な色使いの生徒の色彩感覚を拡げることにも効果があると考えた。色がかすれたり複雑に重なることを生徒は失敗と考えることが多い。しかし、一般多色刷りによる色のかすれや重色は表現のよさにつながる。一見失敗したと考える生徒の不安が、実は作品の風合いとなることを取り上げ、生徒の苦手意識を取り除く手だての一つとして取り組み、表現を深めていくことができると考えた。

#### 2 題材の目標

- ・物の組み合わせや配置、色彩や形の特性などの造形要素などをくみ入れるなどの工夫をしながら自分の想いを表現する。
- ・自他の作品の鑑賞を通して他者の思いをくみ取り、そのよい点や工夫を認め、自分の作品に反映させるなどして、発想・構想を拡げ表現を深める。
- ・一版多色刷りの特性を理解し、単純化によるダイナミズムや重色の効果などを生かしながら自分の想いを表現する。

#### 3 育てる資質・能力

- ・自分の思いを色彩や形の特性などを生かし思いを構想する力
  - ・他の作品のよさや工夫をとらえる力
  - ・他者の発想・構想を自身の作品に生かす力
  - ・材料や用具を活用する力
- } 感じる心

#### 4 本題材における指導の流れと評価計画

この題材の評価規準			
関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の思いを深く見 つめ、他の作品のよ さにも関心を持ち、 自分らしい表現を見 付けることができる。	自分の思いの表現に 適した対象や状況を 豊かに発想し、色彩 や形の特性なども考 えて効果的に表現で きるように構想を練 ることができる。	自分の表現意図に基 づき、物の配置などを 工夫し、画面のバラン スや個々の描写など に注意し、版形式の 特性を生かした表現 ができる。	色彩や形の特性など の造形要素を読み取 り、他の作品のよさ や工夫をとらえ、自 分の表現に生かすこ とができる。

#### 指導と評価の計画 (12時間)

	主な学習活動	評価規準と指導				
		評価規準と評価方法	関心	発想	技能	鑑賞
導入	空想画の一例として、シュールレア リズムの作品を鑑賞。発想方法など を学習する。 ・色彩や形の特性の基本を確認する。	・課題の内容を理解することができ る。 【授業観察】  ・色彩や形の特性の基本を理解する ことができる。 【ワークシート】				
展開	・ワークシートを使いながら、自分 の主題を考え、資料を集める。  ・ワークシートを使いながら、自分 の主題を明確にしてアイディアス ケッチを描く。  ・小グループで互いの作品を鑑賞す る。 ・もう一度自分の作品を見て、主題 が表現できているか確認し、工夫 を加える。 <b>単位時間の指導 と評価計画(1時間)</b>	・自分の主題について考え、必要な 資料を集めることができる。 【ワークシート・資料】 ・主題を確認しながら、どのように 表現したらよいか工夫できる。 【アイディアスケッチ・ワークシート】 ・他者の思いをくみ取り、そのよさ や工夫を認めることができている か。 【授業観察・ワークシート】 ・自分の表現をよくしようと、構図、 個々のものの表現、背景などに創 意工夫する。 【アイディアスケッチ・ワークシート】				
	・原画の作成・色彩計画を考える	・自分の主題が明確になるように、 物の配置、状況などを工夫する ことができる。 画面のバランスに留意して構図 を考えることができているか。				

		木版画の制作を考えた描写ができているか。 色彩の効果を考えて色彩計画を 考えることができているか。 【原画】			
	・転写・彫り（木版がを彫る）	・単純な線彫りにならないように工夫して彫ることができているか。 【作品】			
	・下地を刷る。  ・個々の物を刷る。  ・主題が明確になるように画面全体を考えて仕上げを行う。	・用具を適切に使用し、絵の具の濃さ等に注意して作業することができているか。 【作品・授業観察】 ・主題に沿った色彩計画を考え、制作を行うことができる。 【作品】 ・重色など色彩の効果を生かした刷りを行うことができているか。 【作品】			
ま と め	・縁を切り取り、台紙に貼り付ける。  ・自他の作品について意見を記入する。	・見せることを意識し、自分の作品を大切に扱うことができているか。 【作品】 ・自他の作品のよさや工夫を理解することができているか。 【ワークシート】			

## 5 単位時間の指導と評価

本時の目標：自他の作品の鑑賞を通して、他者の思いをくみ取り、そのよい点や工夫などを認め、自分の作品に反映させるなど発想・構想を拡げ表現を深めていく。

主な授業内容	評価規準と指導
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アイデアスケッチの鑑賞のポイントを確認する。</li> <li>・グループに分かれて（25分）それぞれの作品の思いや工夫した点について発表。他の作品のよい点や興味をひいた点をワークシートに記入する。</li> </ul>	<p>【授業観察・ワークシートで評価】</p> <p>自分の思いや工夫している点を説明することができる。 （発想・構想）</p> <p>評価規準 十分満足できる ：自分の思いを説明し、描かれているもの、</p>





グループに分かれての鑑賞

- ・ アイディアスケッチで自分の思いが表現できているかをもう一度確認し、他の作品の工夫している点などを参考にしながら、アイディアスケッチに工夫を加えていく。



鑑賞を基にして、アイディアスケッチに工夫を加えていく。

背景、構図などの意味や工夫した点を説明できる。

おおむね満足できる

：自分の思いを説明し、描かれているもの、背景、構図などの意味などを説明することができる。

【授業観察・ワークシートで評価】

他の作品のよい点や工夫している点を意欲的にくみ取ることができる。（鑑賞の能力）

評価規準

十分満足できる

：鑑賞のポイント以外にも、他者の思いやよさ、工夫した点ををくみ取ることができる。

おおむね満足できる

：鑑賞のポイントなどを基にして、他者の思いやよさをくみ取ることができる。

努力を要する生徒への手だて

他の作品について、思ったことや感じたことを基にして、発想方法や表現方法の具体例を示し、アドバイスをしていく。

【授業観察・アイディアスケッチで評価】

他者の意見や他の作品のよい点や工夫している点を参考にしながら、自分の作品をよりよくしようと工夫や改善を加えることができる。

（発想・構想）

評価規準

十分満足できる

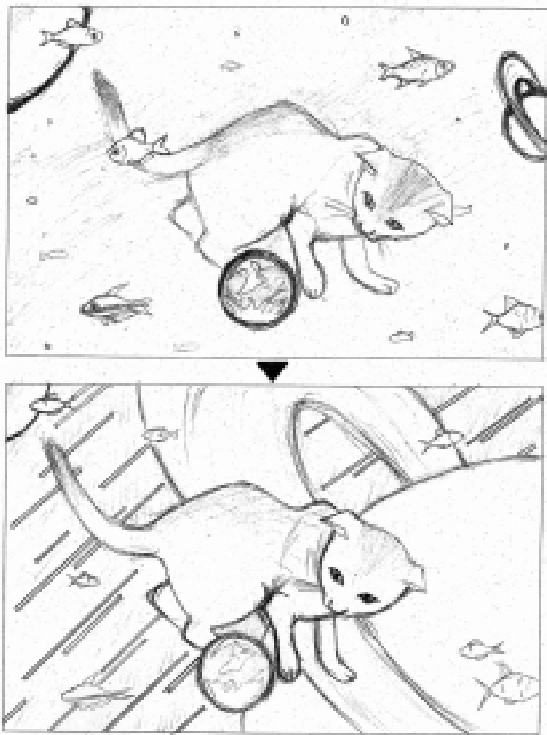
：描かれているもの、背景、構図などに工夫を加え、描かれている個々のものの表現も工夫や改善を加えることができる。

おおむね満足できる

：描かれているもの、背景、構図などを工夫することができる。

努力を要する生徒への手だて

自分の作品の主題を確認させ、言葉などで何を描くかを書き出させたり、他の作品のよさや工夫などを参考にしながら、発想や構想を

	<p>練るように指導する。</p>
<p>(魚)</p>	<p>一風多色刷り (アイディアスケッチ)</p>  <p>〔魚を題材にした生徒の作品〕</p> <p>〔猫を題材にした生徒の作品〕</p>
<p>・ 次回の制作の流れを確認する。</p>	<p>各自のアイディアスケッチの改善点などを確認させ、必要な資料などがある場合は用意するように指示を出す。</p>

### 授業分析

発想段階での小グループの鑑賞であったことにより、普段では発言に消極的な生徒も気楽に発言ができ、話し合いを柔軟に行うことができた。

自分の思いを発表することが、自分の考えの曖昧な部分を確認する機会となり、この段階で、もう一度自分の表現したいものが何かを強く意識することができた。

発想方法や表現方法などの鑑賞のポイントを提示したことにより、他の表現内容について積極的、肯定的に読みとろうとする意欲が出てきた。

自分の表現との違いや他のよい点、工夫している点などに気付いたことを基に発想や構想を見直し、描かれているもの、構図、背景などに工夫を加える生徒が出てきた。

後日、多くの生徒が資料を集めたり、休み時間にアイディアスケッチの質問に来るなどの関心や意欲が高まった。

## 6 考察と課題

### (1) 題材と学習活動

発想段階での鑑賞は、自分の表現の曖昧な部分に気づき、自分の思いを再確認したり、新たな表現方法のヒントを得るなどの発想や構想を変化させることができた。イメージが

固定化する前の段階で小グループの鑑賞を取り入れたことにより、説明をする生徒、アドバイスをする生徒ともに気楽に発言ができ、発想の柔軟性につながるなど、生徒の不安の軽減に役立っていた。鑑賞のポイントとして具体例を提示し、鑑賞の態度を「よさを取り上げ、さらに良くするためにはどうすればよいか」という点に置いたことも、生徒相互の評価を円滑にし作品を積極的に読み取ろうとする意欲につながった。

## (2) 教師の評価と支援

アイディアスケッチやワークシートでよさを認め、様々な視点からのアドバイスを伝えることにより、思いを再確認し表現を深める生徒も多くでてきた。この段階での生徒相互や教師からのよさを認める評価が自信につながり、制作意欲の高まり、資料を集め直したり、制作過程の各段階において自分の思いの確認につながっていった。

例として取り上げた2つの作品は、「背景がさびしい印象がするから、何か工夫した方がよいのでは」(猫)「魚が好きなのはわかるけど、動きを感じられない。何か物語を感じさせる工夫をするとよいのでは」(魚)といったアドバイスを受けた生徒がアイディアスケッチを変更した。猫の作品は「背景の惑星を大きく描き、流れ星のようなものを描いて動きを感じさせる構図」とし、魚の作品は「魚の種類、大きさ、向きなどに変化をつけ、釣り針を中心とした構図」に変更している。このことにより、「物の大きさの変化により画面のバランスに変化ををつけたり、流れ星を描いたことにより動きを表現するなど背景に工夫を行った」(猫)「魚の大きさや向きに変化をつけたことで、動きや奥行きを表現を行い、つり張りを中心とすることで、画面に動きと同時に集中力が現れ、場面の状況や物語性を表現するなどの工夫を行った」(魚)という構想の深まりを評価することができた。

相互鑑賞の積み重ねと教師の評価は、表現力を高め他者の作品やその他の芸術作品のよさを感じ取る力を高めていくことができると考える。

版形式の表現にしたことにより、刷りながら自分の思いを確認して画面構成を考えたり、重色の効果など色彩に対して新鮮な気持ちでとり組み、意欲的に制作した生徒も多く見られた。ただし、絵の具の濃さ重ね刷りなど技術的に苦労した生徒に対し、教師の指導上の注意が必要であった。

課題として、次の3点を考えた。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>(1) 表現の目的と手段の在り方が明確にもてないでいた生徒への手だて。</li><li>(2) 鑑賞を取り入れるタイミング。</li><li>(3) 他の課題への鑑賞の取り入れ方。</li></ul> |
|--|

課題については、今後授業実践等の積み重ねをして検討していく。

## 授業による研究

### 題材名 油彩画「自由テーマによる油彩画」(第3学年選択 70時間)

#### 1 題材設定の理由

普通の美術の授業では、時間に追われて与えられた教材を短時間で作品に結びつけていかなければならない。そのため生徒自身が納得のいく表現ができるまでの時間が取れないこともある。そこで3年の選択教科では、選択ならではの深みのある作品を作らせるために、あえて1年間で1枚の作品をじっくり制作する。

油彩画はほとんどの生徒が初めて手にする素材で、繰り返し描くことに適し、乾きにくいので、作品をじっくり眺める時間が自然とできる。この過程を活用し生徒は制作する時間と、鑑賞する時間を交互に持つ。そして相互評価し合うことで、個性を尊重しつつ技法などを学び合うことができる。鑑賞において、発表者は自分の考えを絵ではなく文字にすることで「伝える心」が育まれ、他の評価から、自分の作品がどう見られているのかわかり、自分に自信をもつて制作することができるだろう。また、聴講者は発表者の伝えようとしている思いを理解しようとすることで「感じる心」が育まれる。

この鑑賞の活動を表現に関連付ける取り組みを授業に組み込むことで、たとえ十分な表現ができなかったとしても、作品には各自が葛藤した軌跡がうかがえ、生徒自身にも成長の跡が見える。これにより達成感が味わえ、最後まで意欲的に造形活動ができるだろう。

そして、この鑑賞の活動をくり返し行うことで、より質の高い表現ができるようになると思う。

#### 2 題材の目標

- ・自分の作品の制作日誌をつけ、自分の鑑賞会での発表を通して、作品(自己の内面)と向き合う。
- ・自分のイメージの方向性を考える(再考・再確認)。
- ・油彩画の技法を理解し、重色の効果や、その雰囲気に適した作品作りを経験し、新たな表現方法を模索する。
- ・自他の鑑賞を通し、イメージ(方向性)の相違に気付き、それによる技法の選択の違いに気付く。
- ・自分にない技法を知り、他者の作品の中から生かせるものは自分の作品に効果的に生かし、完成度の高い作品にしていく。
- ・相互評価によりコミュニケーション能力を育む
- ・自分の作品の受けとられ方を、同級生の鑑賞の言葉から知る。

#### 3 育てる資質・能力

- ・自分の思いを描法によって表現しようとする心。
- ・生徒同士お互いの作品から学ぼうとする姿勢。
- ・恥ずかしがらずに自分の考えや気持ちを表現できる力。
- ・相互評価に適した雰囲気作りを図る姿勢。

#### 4 本題材における指導の流れと評価計画

この題材の評価規準			
関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の想いを深く見つめ、自分らしい表現を見つけようと創意工夫する。 他の作品の良さにも関心を持ち、学び合うことができる。	自分の想いの表現に適した題材・技法を考え、図案や構図、タッチや色彩などを構想する。	自分の表現意図に基づき題材を決定し、油彩画に適したタッチ、色彩を生かした表現が模索できる。	油彩画独自の表現方法や、水彩画との表現方法の違いを感じとる。 他の作品の表現意図に基づいた良さや工夫を捉えることができる。

#### 指導と評価の計画

	主な学習活動	評価規準と指導				
		評価規準・評価方法	関心	発想	技能	鑑賞
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>油彩画の発生・素材について、ワークシートを利用し学習する。</li> <li>実際の生徒の作品を参考にしつつアイデアスケッチを描く。</li> <li>パレットのアイデアスケッチをし、作成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>油彩画の簡単な歴史や、水彩画との比較から、油彩画らしい作品を理解しようとしている。 【ワークシート0】</li> <li>テーマを決められた。【アイディアスケッチ】</li> <li>テーマが油彩画に適しているか検討しようとする。 【授業観察】</li> <li>油彩画の道具を楽しんで作成する。 【授業観察・作品】</li> <li>道具作りを通して、油彩画の特徴に気付く。 【授業観察】</li> </ul>				
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンバスへ拡大して下書きをする。</li> <li>制作日誌の作成を通し、技法の理解、作品への自分の想いを確認する。</li> <li>油彩画の重色方法ペインティングナイフの使用法を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下書きから本書きに至る課程を理解できる。 【授業観察・作品】</li> <li>自分のイメージはどうしたら表現できるのか、技法を選択している。 【授業観察・制作日誌】</li> <li>自分の想いにふさわしい油彩画の技法を選択している。 【授業観察・作品】</li> </ul>				
閉	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の作品に対する想いをワークシート1を手がかりに発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タッチ・色味・構図のねらいを発表している。 【授業観察・ワークシート1】</li> <li>他者の良さを見付けワークシートに表現している。 【授業観察・ワークシート2】</li> </ul>				

	<p>・発表の感想をワークシート2に記入する。</p> <p><b>単位時間の指導と評価計画</b></p> <p>・鑑賞を基に、自分にとって新たな技法を加えたりしながら制作する。</p>	<p>・鑑賞したことにより自分の作品の制作に工夫を加えている。</p> <p>【ワークシート3・作品】</p>			
ま と め	<p>・制作日誌をまとめる</p> <p>作品解説記入 感想記入</p> <p>・完成した作品を展示し、鑑賞する。</p>	<p>・タッチ・色味・構図のねらいは自分のイメージにふさわしかったかどうか考察できる。 【制作日誌・ワークシート3】</p> <p>・相互の作品のよいところ、テーマに沿った表現方法か、を中心に意見交換できる。 【授業観察・ワークシート2】</p> <p>・各自のテーマへのアプローチ方法の違いを具体的に示すことができる。 【授業観察・ワークシート2,3】</p>			

## 5 単位時間の指導と評価

本時の目標： 自分の作品の発表者

発表を通して、自分の作品への想いを確認し、その表現方法の方向性を再検討する。

発表者以外

作者の想いをくみ取り、そのよい点や工夫などを認め、自分の作品に反映させるなどして、自分の表現方法を模索する手だてにする。

ねらい・学習活動	評価規準と指導
<p>・鑑賞の心構えを説明する。</p> <p>作者の心情や意図、よさや美しさをくみ取ろうとする。</p> <p>作品に対する自分の価値意識をもって批評しあう。</p> <p>自分の作品について振り返る</p> <p><b>発表生徒</b></p> <p>・それぞれの表現したいことは何か、どうしたらそれができると思うかについて発表する。</p>	<p>【授業観察・ワークシート1で評価】</p> <p>十分満足できる</p> <p>：タッチ・色味・構図をねらいをもって作成し、表現の工夫を発表することができる。</p> <p>おおむね満足できる</p> <p>：タッチ・色味・構図のねらいを発表すること</p>

<p><b>他の生徒</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制作の発表(一人5分程度)を今日の担当の生徒の発表を聞き、それを基にワークシートを記入。</li> </ul> <p>(発表する生徒は事前に発表内容を制作日誌等を使ってまとめておく。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートの記入</li> </ul> <p>発表の感想を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作品の片付け、次回の制作の流れを確認する。</li> </ul>	<p>ができる。 (発想や構想の能力)</p> <p>努力を要する生徒への手だて</p> <p>自分の作品のテーマは何か、他の作品との比較から具体的な違いを指摘することで気付かせる。</p> <p>【授業観察・ワークシート2で評価】</p> <p>十分満足できる</p> <p>: 作品の持ち味について自分の価値と照らして批評することができる。</p> <p>おおむね満足できる</p> <p>: 他の発表を聞きその良さをわかることができる。(感想欄が書ける) (鑑賞の能力)</p> <p>努力を要する生徒への手だて</p> <p>他の作品の工夫しているところについて、具体例を補足説明する。</p>
---	---

## 6 考察と課題

### (1) 題材と学習活動

油彩画にはさまざまな技法があり、工夫をこらすことでそれぞれの作品には異なった味わいが生ずる。生徒の作品ではあるが、生徒が興味をもち鑑賞をすることができる。また、鑑賞することで自分の作品に振り返ったり、工夫を加えたりすることもできる。

今回の授業では、表現と鑑賞の活動を関連付け、油彩画の描画の制作途中の段階で生徒の絵による鑑賞を取り入れた。それにより、発表した生徒は自分の表現したいものが確認でき、作品の方向性を明確にすることができた。また鑑賞した生徒は、他の生徒の作品を見ることで、自分にはない良さ、技法など、自分の作品との違いを感じ取っていた。

また教員は、ワークシートにより生徒の要求段階を知り、具体的なアドバイスの必要性をみてとることができた。そして、鑑賞を行うことで発表者は心を伝えるための描画方法に対する要求段階が向上したこと、聴講者は適切なアドバイスをしようと、心を伝えるための描画方法を模索し始めたことを確認した。このことは作品に深みを持たせることにつながった。

今回の鑑賞を取り入れた学習では、ほぼ3年間同じ生徒が美術を選択しており、気心の知れた仲間であったことが、環境作りに大いに役立っていた。生徒が互いに気兼ねなく制作途中の絵を見せたり、自分の考えを発表することができていた。生徒は自分の意見を大きな声でしっかりと述べることができ、コミュニケーションを図ることができていた。

中には発想の能力は高いが、自分の描写の能力に自信の無い生徒も、相互鑑賞により、他の生徒に褒められたことで自信につながり、堂々と人に見られながらも制作に励むようになった。

鑑賞会后、絵の描写の仕方が変わり、今まで物足りないと思っていて求めていたものを

発見し、とても満足そうに制作している生徒もいる。特定の生徒の作品を例として見せるといった鑑賞ではなく、身近な生徒同士による相互鑑賞も、生徒の作品の質の向上に非常に有効であったと思う。

## (2) 教師の評価と支援

ワークシートの活用により生徒の要求段階を知る手立てとした。ワークシートに書かれている生徒の悩み、迷いに対し具体的なアドバイスの必要性をみてとることができた。鑑賞を行う際には次のことを確認した。「発表者は心を伝えるための描画方法に対する要求段階が向上したこと、聴講者は適切なアドバイスをしようと、心を伝えるための描画方法を模索し始めたこと」の2点である。この教師による支援は鑑賞を具体的にし、それぞれの作品に深みをもたせることにつながった。

評価に関しては、生徒相互の評価を取り入れたことで、自分にはない能力・技法を互いに褒めることができ、発表した生徒の自信につながった。更に相互評価を意図的に組み込んだ評価計画による評価は、身近な生徒による認め合いとなり、更なるコミュニケーションの潤滑に役だった。

教師の評価にワークシートを活用することは、発表者があらかじめ自分の考えを絵ではなく文字にすることができ、伝える意図が明確になっていくと同時に、評価する具体的な資料となった。教師の意図する「伝える心」がはぐくまれる一助となった。

他者の肯定的評価から、自分の作品がどう見られているのかわかり、自分に自信をもって制作することができるだろう。また、聴講者は発表者の伝えようとしている思いを理解しようとする中で「感じる心」が育まれる。技法の未熟さゆえ表現できなかった生徒個人の思いを、文字・言葉により分かりやすく評価できたと考える。

今後の授業での課題は、次のことがあげられる。

- ・作品の完成度と、鑑賞会（発表）のタイミングをどうするか。
- ・生徒自身に必要な鑑賞回数はどれくらいか。
- ・努力を要する生徒へのきめ細やかな手だての更なる工夫を図る。
- ・他の題材では鑑賞をどう生かすか。
- ・授業の流れの中でほめる評価をどれだけ実践していくか。

一方、今回の研究で得ることのできた鑑賞の有効性については是非これからも日常の授業に積極的に取り入れていきたい。そうすることにより美術を見る目を養い、「生活に息づく美・美術」の発見ができる生徒に育てていこうと願うからである。

## 7 資料





## 授業による研究

題材名 平面・立体 「心のスケッチ・空想」 (第3学年 8時間)

### 1 題材の設定理由

事前アンケートから、「自分の作品を見られるのは恥ずかしい。自分を知られたくないから自分のことはあまり言いたくないし、人のことも深く知ろうとは思わない。」という感情があり、自己肯定感が持てない生徒がいるということが読み取れた。この心の垣根とも言える感情をできるだけ低くしていくことがこれからの表現活動には必要であると考えた。そのためには自分を見つめながら人とのかかわりを自然に進めていけるコミュニケーション能力が必要になってくる。コミュニケーション能力が高められれば、他者とのかかわりを通してよりよい作品を作ろうと感じ、表現活動に工夫が見られるようになり、より表現力も高められると考える。

今回、あり得ない世界を表現する空想作品にしたのは、テーマなどを見てもすぐに分からない、理解しにくい題材だからである。班での相互鑑賞をすることで、友達から「何を表現したいの？」とテーマを追究されることで、自分が何を表現したかったのか曖昧だった自分に気付かされる。つまり、班活動を通して友達の作品のよい点、参考にすべき所はもちろん、お互いが自分の曖昧さや表現の弱い所などを気付かされることになる。それをクラス全体にも自分の作品についての考えや相互鑑賞での気付きを報告し、その後、反省を通して自分自身を振り返る。この制作・相互鑑賞・報告・反省の作業を繰り返すことで、伝えたいことが明確になり、伝え方もより工夫されるものとする。

### 資料1 (事前アンケート集計) 対象学年3年

自分の作品を人に見せたいと思ったことはありますか？

・ある 作品のどんなところを見てほしいですか？

- ・作っていて自分でうまくできたな、ほめてもらいたいなというときに見てほしい。
- ・変だけど自分が表したかったことを分かってほしい。
- ・自分のアイデアを使ったところ。
- ・自分の気持ち。
- ・表現の仕方。
- ・どこが悪いとか、どこが変だとか、どの辺が分かるかとか。
- ・一生懸命真面目に作った感じ、工夫したところ。

・ない なぜ見せたくないのですか？

- ・あまり満足していないから。
- ・自分の作品を見せるのは少し気が引けるから。
- ・そのものを描く作品はうまくないから。
- ・下手だから、恥ずかしいから。
- ・他人に笑われたくないから、自分が認めていないから。
- ・恥ずかしいから、自分の作品に自信がないから。

- ・友達がうまくて、恥ずかしくて見せられない。自分が気に入らないとき。「なんだこれ」とか言われるときがあるから。

友達の作品を鑑賞してみたいと思いますか？

- ・思う 友達の作品を鑑賞するときにどんなことを注意していますか？

- ・どんなところに注意してどんな工夫をしているのか。なるほどと思えばまねをしたい。描き方。道具の使い方。
- ・友達のアイディア，自分とどんなところが違うのか。
- ・何を見せたいと思ったのか。
- ・どのような工夫をしているのか，どうやって描いたり作ったりしているのか。
- ・みんなどんな工夫をしているのか見たい。
- ・気分次第。
- ・どんなことを考えて作ったのか。表現を工夫しているか。
- ・自分もっていない表現を友達はどんなふうに表示しているか，どんなことを描いているのか，etc...。
- ・どんな表現をしているのか。

- ・思わない なぜ鑑賞したいと思わないのですか？

- ・みんないやがるから。

## 2 題材の目標

今回設定した空想作品は，自分との対話，自己の内面を見つめていくものである。表現方法にあまり制限をせず，平面でも立体でもよく，素材も自由に選ばせ，できるだけ表現に幅をもたせることで，自由な発想と表現ができるようにした。自分の思いが作品に現れているかどうかということも大事だが，他の人とのかかわりを通して，お互いのよさを認め，表現の足りない部分に気づき、制作に活かしていけたかどうかという点が，今回の題材の目標でもある。

- ・自分の心の中のイメージを大切に，豊かな発想で夢や不思議な世界を主体的に表現する。
- ・描画材料，表現方法を選択し，見通しをもつて作業を進める。
- ・様々な技法を学び，材料や用具を効果的に生かして，完成度の高い作品を計画的に表現する。
- ・自分の作品を他の人がどう受け止めるか，他の人とのかかわりを考えながら作業を進める。
- ・自己の内面と向き合うことで，自分と対話し，表現の足りないところなどを発見する。
- ・自他の作品を鑑賞し，そのよさや工夫した点，内面に潜む作者の気持ちなどを理解し，積極的に自分の制作に生かそうとする。

(ゴチックは特に重視した点である。)

## 3 育てる資質・能力

- ・作品を通して他者との意志の疎通を図るコミュニケーション能力 ————— 伝える心
- ・自分の思いを伝える表現力 ————— 伝える心
- ・他者の作品から作者の内面を感じ取る鑑賞力 ————— 感じる心

#### 4 本題材における指導の流れと評価計画

この題材の評価規準			
関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
イメージを膨らませ主体的に制作に取り組み、他者の作品の表現に関心をもってそのよさに気付くことができる。	感性や想像力を働かせ、心豊かな表現の構想を練ることができる。	自分の主題を大切に様々な技法・材料を応用して表現できる。	多くの作品を鑑賞し理解を深め、自分の作品の制作に生かすことができる。


#### 指導と評価の計画


	主な学習活動	評価計画			
		評価規準・評価方法	関心	発想	技能 鑑賞
導入 0.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ鑑賞（シュールレアリスム）</li> <li>・ワークシートに感想等記入</li> <li>・さまざまな個性とそれを生かした表現の違いに目を向ける。</li> <li>・作品紹介，シュールレアリスムの理解。技法，用具，材料の紹介。</li> <li>・多種の材料で自由に表現できることを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料や技法に関心をもって、自分の作品に生かそうとする。 【ワークシート・授業観察】</li> <li>・様々な作品を通してそのよさや作者の思いを感じ取り、自分の作品に生かそうとする。 【ワークシート・授業観察】</li> </ul>			
展開 7.0	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のテーマを絞る。 目的，材料，方法を検討する。</li> <li>・完成予想をイメージしアイデアスケッチする</li> <li>・お互いにアイデアスケッチを見せ合い，意見交換をする。</li> </ul> </div> 単位時間の指導と評価計画(1時間) <ul style="list-style-type: none"> <li>・制作</li> <li>・自分の作品の意図やイメージをもう一度確認する。</li> <li>・制作の出発点に立ち戻らせ、自分自身に問いかける。常に他の人が自分の作品をどう受け止めるか考えながら作業を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の中に浮かぶイメージや自分が見た夢，詩や物語などの場面をあり得ない世界として表そうとする。 【ワークシート・授業観察・作品】</li> <li>・友達の作品から作者の意図するテーマを感じ取ることができ、また友達から意見を参考にし作品に生かしていこうとする。 【ワークシート・授業観察・作品】</li> <li>・材料，技法を選択し，構図や空間表現を考えながら制作できる 【ワークシート・授業観察・作品】</li> <li>・材料や用具を効果的に活かし，作品を表現することができる。 【ワークシート・授業観察・作品】</li> </ul>			
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの作品鑑賞，感想，意見交換をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の内面と向き合い，新しい自分を発見できる。</li> </ul>			

め 0.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人それぞれに個性や表現があることを確認する。</li> <li>・アンケート</li> </ul>	<p style="text-align: right;">【ワークシート・授業観察・作品】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の作品について、その良さや工夫した点を理解できる。</li> </ul> <p style="text-align: right;">【ワークシート・授業観察】</p>				
----------	---	---	--	--	--	--

## 5 単位時間の指導と評価

本時の目標：テーマを決め、作品を見る人がどう感じるかを考えながら構想図やアイディアスケッチを描く。

	主な授業内容	評価規準と指導
導 入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート返却</li> <li>・前回のビデオの内容(シュールレアリスム)を思い返す。シュールレアリスムと言う芸術活動の意味を確認し、ワークシートの「テーマ決定」記入に取りかかる。</li> </ul>	
展 開 35 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のテーマを絞る。 何を表現するか(目的) 何で表現するか(材料) どうすれば表現できるのか(方法)</li> <li>・偶然性を利用した作品を考えている場合作業行程を記入する。</li> <li>・実現可能かどうか検討する。</li> <li>・構想図あるいはアイディアスケッチを描く(ワークシートに記入)</li> <li>・班でお互いに構想図あるいはアイディアスケッチを見せ合い、どう感じるか話し合う。コメントも記入する。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">〔アイディアスケッチの意見を交換〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と関わることで自分がどう変わっていくのかを学ぶことを意識させる。</li> <li>・特にテーマについて理解できなければよ</li> </ul>	<p>【授業観察・ワークシートで評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心の中に浮かぶイメージや自分が見た夢や詩、物語などの場面を想像の世界として表そうとする。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(関心・意欲・態度)</p> <p>評価規準</p> <p>十分満足できる ：偶然性、構想の深まりをより深く追求する</p> <p>おおむね満足できる ：自分の表現に工夫を加える 努力を要する生徒への手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をどうしたらよいのかわからない場合は、デカルコマニー、オートマティズムなどの偶然性からきっかけをつくってもよいし、また、夢や曲などから浮かぶ身近なイメージからはじめてみてもよい。</li> </ul> <p>〔班での話し合いの注意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品、考え方、方法などけなさない。</li> <li>・よい点、工夫している点、面白い所などを見つける。</li> <li>・テーマなど分からないところは説明してもらう。</li> </ul> <p>【授業観察・ワークシートで評価】</p>

	<p>く説明してもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前のスケッチは消さないようにする。</li> <li>・全員の記入が済んだらワークシートを本人に返し、他の人がどう見ていたのかわ知る。</li> <li>・各班から代表を数名指名し、全体の前で自分の作品についての考えや、相互鑑賞での気づきなどを報告する。</li> </ul>  <p>〔全体の前での相互鑑賞〕</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の作品から作者の意図するテーマやよさを、感じ取ることができ、また友達の意見を参考にして、作品に生かしていこうとする。 (鑑賞)</li> </ul> <p>評価規準</p> <p>十分満足できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>：多様な見方をし、感じ取る努力ができている。いくつかの表現技法を工夫している。</li> </ul> <p>おおむね満足できる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>：他の生徒の見方を知り、表現方法の工夫を考えることができる。</li> </ul> <p>努力を要する生徒への手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の説明をよく聞き、わからないところがあれば質問してよく説明してもらいコメントも同様にわからなければよく説明をしてもらい参考にする。</li> </ul>
<p>ま と め 5分</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の授業の反省感想・次回の予定などワークシートに記入する。</li> </ul>	<p>努力を要する生徒への手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つまづきがあれば何に困っているのか、次回どうしたいのか、次回までに何をしなければいけないのかなど、ワークシートに書かせることで気持ちの整理をさせる。</li> </ul>

出典 続・美術の見方5 意識の変革(シュールレアリスム)(株)日経映像

## 6 成果と課題

### (1) 題材と学習活動

鑑賞の時間をなかなか確保できず、作品の制作に多くの時間を費やしがちなのが美術の現状である。今回のような空想作品では、テーマ決めに時間がかかった生徒もいたが、制作途中のほんの短い時間でも鑑賞活動を取り入れ相互評価を行うことで、生徒たちに変容を促すことができた。それも有名な参考作品ではなく、身近な友達の作品と自分の作品が対象なので、なにより自分を振り返るにはよい刺激となって次の制作を工夫するようになった。テーマが伝わりにくい空想作品なので、「班で話し合いをして、自分の中でテーマがよく決まっていなかったがよく分かった」という感想から分かるように、本人が気付いていない曖昧さを友達に指摘されたことは、かなりの刺激となって、本人の中でよりよい作品にしていこうという創作意欲につながった。また、人前に出たがらない生徒でも、「私の作品は、中に写真を入れるのがよいと誉めてくれたり、」と、自分の作品の良さを認められたことで、自信をもって全員の前で自

分のテーマや考えについて説明することができた。そして「もっとみんなの作品が見たくなった」というようにかかわりをもつことに前向きになった。

## (2) 教師の支援と評価

今回の実践では、指導する側の支援の在り方として次の2点を重視した。

- ・班で友達の作品を鑑賞するとき、気を付けなければいけない注意点や心構えなどを説明し、この鑑賞を通して何を学習するのかを理解させる。(鑑賞の必要性)
- ・お互いのよい点を見つけることと、自分が何を表現したいのか友達の質問を通してテーマの曖昧さを追求させることが相互の成長につながることを理解させる。(評価の方法)

人とかかわることで作品が良くなったという経験が、人とのかかわりを自ら求める態度を育て、コミュニケーション能力が高められた。つまり、制作・相互鑑賞・報告・反省という形がより良い作品にしていこうという姿勢につながり、表現力も高められたことは、自分を改善し向上させていくことにもつながったと言える。

成果として、

- ・他の人へのかかわりを求めるようになった。
- ・自分の表現が良くなることが理解でき、表現への意欲が出た。
- ・鑑賞の必要性が理解できた。

しかし、やはり中には制作に没頭し続けたい生徒もいて、制作途中で鑑賞を入れ、何度も制作を中断され、集中力が途切れることが、個々の作業の進度に差が出てきた原因の一つと考えられる。今後は、意欲や集中力を失わせないように、鑑賞を取り入れるタイミングを考えていく必要がある。気を付けないと我々の意図とは反対に、かえって人とのかかわりを拒んでしまう結果になりかねない危険性があることも考えていきたい。

課題として、

- ・鑑賞のタイミング  
意欲、集中力を失わせる場合もある

## 資料2 授業後の反省・感想文(ワークシートから抜粋)

- ・今日、班で話し合いをして、自分の中でテーマがよく決まっていなかったことがよく分かった。
- ・今回の話し合いをして、自分が何を表現したいのかが、少し分からなくなってしまった。素材が種類だけだと、「つまんない」と言われたので、もっといろんなものを使ってみようと思いました。
- ・もっとみんなの作品が見たくなった。
- ・みんなと自分を比べてみると自分のテーマがあまりはっきりしていない
- ・自分の作品はなんだかよく分からない作品だと思った。テーマは決まっているのだけれど、その作品で、本当は何を伝えたいのか自分でもよく分からなかった。
- ・説明不足だった。
- ・みんなからの感想を読んで色など参考にしながら、この先のことを考えたいと思います

す。

- ・私の作品は、中に写真を入れるのがよいと誉めてくれたり、逆に下に引っぱったらいいなどというアドバイスもいただきました。
- ・自分では思いつかないようなことをしている。
- ・何を表現したいのか、ちゃんと考えなければいけないなと思いました。

「班で話し合いをして、自分の中でテーマがよく決まっていなかったことがよく分かった」

よりよい作品にしていこうという創作意欲につながった。

「もっとみんなの作品が見たくなった」

かわりをもつことに前向きになった。

「私の作品は、中に写真を入れるのがよいと誉めてくれたり、」

自分の作品の良さを認められ、自信をもって説明することができた。

### 資料3 (事後アンケート項目)

## 美術科アンケート

- 1 作者(本人)から受ける印象と、作品から受ける印象に何か違いがありますか。
- 2 これからも友達の作品を見せてもらいたいと思いますか。
- 3 自分の作品を見てもらって、どうでしたか。
- 4 これからも自分の作品を見せていこうと思いますか。
- 5 自分の作品も含めて、作品鑑賞を通して何か発見や驚きがありましたか。
- 6 空想したり想像したりすることが好きですか？
- 7 絵(平面)を描くことは好きですか？
- 8 彫刻(立体)を作ることは好きですか？

### 資料4 ワークシート

自分の課題を確認しよう。(テーマ決め)

何を表現したいの？ 光		1. 表現したいテーマを 決める。 2. 表現したいテーマを 友達に説明する。
どんな素材で表現するの？ (自由選択可) 紙、物の写真の集		3. 友達からフィードバック をもらう。
どんな方法で表現するの？ 色、用紙		4. 友達からフィードバック をもらう。 5. 友達からフィードバック をもらう。

自分の課題を確認しよう。(テーマ決め)

何を表現したいの？ 水	1	2	1. 表現したいテーマを 決める。 2. 表現したいテーマを 友達に説明する。	
どんな素材で表現するの？ (自由選択可) 紙、画用紙	3	4		3. 友達からフィードバック をもらう。
どんな方法で表現するの？ デコレーション、お色紙、水				4. 友達からフィードバック をもらう。 5. 友達からフィードバック をもらう。



## 研究のまとめ

本研究では「伝える心・感じる心」を育てる指導と評価の工夫について、3つの研究授業での実践的な研究によって、仮説の検証を行ってきた。

仮説における表現活動と鑑賞活動との関連付けた指導と、それに伴う適切な評価によって「伝える心・感じる心」の変化、もしくは伸長がなされたのかを考察していきたい。

### 1 授業による研究1 一版多色刷り 「空想の世界 自分の想いを表現する」

#### 授業での成果

##### 発想の広がり

制作工程初期の段階で鑑賞の授業を取り入れたことによって、個人の中でのイメージが固定化されてしまう前に多くの事例に触れ、生徒・教師の評価場面を設けることにより発想が広がった。

##### 不安の軽減

ラフスケッチの段階での、相互の作品の鑑賞を行ったことで、完成度や技能面での格差を感じる事が少ない状況で意見の交換が行えた。

##### 自信へのつながり

作品を中心に、身近な存在の生徒同士でよさを認めあう意見を交換しあう機会をもつことで人間関係へ自信へとつながっていった。

#### 今後の課題

##### 指導の在り方

表現の目的などへの考察が深まらない生徒に対する、教師の継続的な支援の在り方。また題材の性格でもある「幅広い表現」を掲げた時に個別支援に困難が生じる。

##### 制作の進度への考慮

表現活動（制作段階）から鑑賞活動へと切り替えていく際に十分に生徒個々の進度に配慮が必要。ある程度の平均化が見られない状況では円滑な意見の交換が行えない。

##### 他の題材への応用

本題材における成果を、他の題材の中でも期待されるような結果が得られるのか、応用的な研究は試みていく必要がある。

### 2 授業による研究2 油彩画 「自由テーマによる油彩画」

#### 授業での成果

##### 自信へのつながり

皆の前に出て発表する形式をもったことで、発表した生徒が自信をもてた。

##### 表現の深まり

発表をした生徒に発表を受けとめた生徒の評価を返していくことで両者の表現が深くなった。教師がワークシートに形成的評価を記入することで作品の表現に変容がみられた。

#### 今後の課題

##### 制作の進度への考慮

##### 他の題材への応用

##### 鑑賞活動の頻度

一人の生徒が制作の各段階においてどのくらいの頻度で鑑賞活動やそれに伴う発表活動を行えば、効果的なかを検証していく必要がある。

##### 指導の在り方

努力を要する生徒への手だて。具体的であったり、ポイントになるような支援やアドバイスを個々の生徒の制作段階に応じて伝えていく指導の工夫。

### 3 授業による研究3 平面・立体 「心のスケッチ・空想」

授業での成果		
<b>コミュニケーション能力の伸長</b> 「他の人の作品をもっとみたい」という積極的な意見や「意見を発していく立場の側は真剣に相手のことを考えなければならぬ」という意見が着実に増えた。	<b>表現活動への積極的な姿勢</b> 他の生徒作品の鑑賞や生徒の評価を経て、もっと工夫したいという積極的な表現活動へとつながっていった。	<b>鑑賞活動の意義を知る</b> 鑑賞活動を取り入れていく中で、作品の表現が高まることで、鑑賞活動の必要性を感じるようになった。

今後の課題	
<b>指導の在り方</b>	制作段階の中断をまねき、集中力を削いでしまう場合がある。

#### 4 考察

本研究での3つの授業実践の事例は、どれもが題材としては共通する「空想や想像をして描く」作業である。制作段階や指導方法は各事例で相違はあるが、鑑賞を通して「伝える心、感じる心」育てていくことをねらいとしたものである。

各研究授業で、普段から自己の内面を表現する機会をもちたがらない生徒から多くのことを引きだせた理由は、この題材の特性にもよるところがあると推察される。しかし、鑑賞の時間を設け、生徒・教師の評価を製作者に伝えていくことによって変容する場面も多くみられた。

例えば、まず授業の最初に「互いを認めあう」という原則的な方針を示し、発想や技術的な優劣を批判しあったりすることなく、「互いを高めあう」ための手段であることを提示していたことや、ワークシートを工夫したことで、他者の前で自己の内面を表現するという過程で生まれるためらいを軽減させ、多様な表現方法に挑戦しようとする変容が見られた。

ワークシートでは表現していく過程で、作業への反省や、他者の評価にもとづく表現の変化、一步一步の積み重ねが残されていくという工夫があり、それはポートフォリオの概念と同じくするところである。そうして個人が培ったものに対して、これまでにない評価場面も生まれた。

今後の課題としては、

**自己の内面をより深く追究していくことと、それを独創的で美しい表現へと、どのようにして結実させていくのかという指導と評価の工夫。**

**集団の中で、上記の規準に対して努力を要する生徒への手だての工夫。**

**「人とかわるなかで、自分がどういう風にならっていくのかを考える」授業を、教科として各題材に関連付けて取り組んでいくこと。**

以上があげられる。

観点別評価に基づく絶対評価への移行からも鑑賞活動の必然性は高まっている。表現と鑑賞の相互作用によって生まれてくるものを追究することは、生徒一人一人からより多様な造形表現をひきだしていく手がかりとなるだろう。

平成15年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録  
平成15年度 第31号

平成16年1月21日

編集・発行 東京都教職員研修センター  
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14  
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 勝田印刷株式会社